

わたしの好きな本

「今月の一冊 ～わたしの好きな本～」(10月)

<ご紹介者>

矢祭町長 佐川 正一郎

矢祭町子ども読書の街づくり推進委員会委員長



『小林研一郎 指揮者のひとりごと』

小林 研一郎 著 / 騎虎書房

対象：中学生から高齢者まで



内容のご紹介

初秋に入り過ごしやすい、よい季節となりました。読書の秋、芸術・スポーツの秋、実りの秋を迎えます。去る9月20日に矢祭小学校開校10周年に小林研一郎先生が指揮する記念コンサートが開かれました。全校児童、保護者、町民の皆様の約700名が集まり、本物を体験し、感動したと思います。

今月紹介する本は、小林先生の自叙伝です。スポーツは万能で、中学生のときは、三段跳びで県の記録を創り100m走ではノースパイクで、11秒台で走りました。また、「小学校時代の先生との出会いがあり、今の自分がここにいる。」と言っています。人は、出会いながら学び成長して行くものです。そして、謙虚な姿勢が大切です。

芸術や文化に触れることは、生きるための心の力となり、豊かな心を創ります。そして、一緒に共感しながら、探求心の向上につながると 생각합니다。

この秋は、芸術や文化に触れてください。この本は、人

指揮者小林研一郎さんは昭和15(1940)年いわき市生まれ。10歳でベートーベン「第九交響曲」と出会い鳥肌が立つ感動を覚え、作曲家になろうと……人生を決定づけられた瞬間であった。湧き出る旋律を音にしたいと、学校のピアノで即興曲を弾き、五線紙に書き続ける日々、中学2年の時に県の作曲コンクールで特賞を受賞、反対をしていた父が母と共にピアノを購入してくれた。指揮者はすべてのスコアを覚え、大変な記憶力、さらに体力がないとできない。ご両親の愛情を受け、人とのつながりを大切にされた、温かな生のエッセイ集です。

(紹介文：矢祭もったいない図書館)